



DIR INFORMATION

同志社ローム記念館 プロジェクト・レポート

DIR

「プロジェクト」で生きる、同志社ローム記念館
オープン15周年記念特集号

[ディー・アール]

Vol.30
January 2019



2018年度 最終成果報告会のご案内

日 時：2019年2月23日(土)
場 所：同志社ローム記念館 劇場空間・多目的スペース

第15期となる2018年度の同志社ローム記念館プロジェクトの成果報告会です。ぜひご来場ください。



2019年度 プロジェクトメンバー募集



まもなく次年度活動するプロジェクトが決定し、プロジェクトメンバー募集がスタートします。それぞれの力を最大限発揮してチームの目標達成を目指す「プロジェクト」。

学部学科や学年は問いません。4月には、新メンバー募集イベントも開催予定です。

編集後記

今年は同志社ローム記念館開設15周年記念の年を迎えて、初めて開催したロームフェア2018イベント「エンジニア博」や中間報告会と同時開催した15周年記念フォーラムでは、プロジェクト関係者、学生、教職員、卒業生、ローム株式会社をはじめ企業、自治体関係者など多く参加者を迎えて有意義な企画になった。また、DIR誌上初めて、八田総長・理事長とプロジェクトの学生との対談を掲載し、八田先生から学生たちへの熱いエールをいただいた。そして、本誌編集中には、プロジェクト参加学生が日本学生支援機構から優秀学生顕彰「産業イノベーション・ベンチャー分野」の優秀賞を授与されたとの嬉しいニュースも飛び込んできた。同志社ローム記念館プロジェクトの活動が公的学外団体からも高く評価されたという象徴的な出来ごとになったと思う。

2018年度は、VRゲームソフトやインタラクティブアート作品の開発、韓国の大学との国際連携プロジェクトなどから企業・自治体との連携プロジェクトまで、多彩な10プロジェクトが活動する賑やかな1年にもなった。2003年に同志社ローム記念館が開設され、プロジェクト始動準備から関わってきたひとりとして感慨もひとしおであった。これからも学生たちが、自由な発想、アイデアで独創的なプロジェクトを展開することによって、未来の情報メディア世界を牽引する人物に成長していくことを願っている。

(同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会事務局(同志社大学京田辺校地総務課長) 田鍋 耕三)

表紙の人

2018年度プロジェクトメンバー・関係者のみなさま

9月29日(土)、同志社ローム記念館オープン15周年記念フォーラム、中間報告会が開催された。八田総長・理事長や講師の廣瀬先生、外部審査員のみなさまをはじめ、本年度活動するプロジェクトメンバーや関係者の皆様、ローム記念館プロジェクト運営委員、WG委員が一同に会した15年目の歴史的一幕。

プロジェクト・サポート募金のお願い

学校法人同志社
総長・理事長 八田 英二

学校法人同志社は、同志社大学ならびに同志社女子大学を中心とした法人内各学校が一致協力して同志社ローム記念館でのプロジェクト主義に基づく新しい教育・人材育成を積極的に進めています。また、これまでも現代GP申請による補助金獲得など学外資金を積極的にとりいれるべく努力をしております。

この同志社独自の新しい教育・人材育成事業を発展的に展開させるために、教職員をはじめ広く社会、市民のみなさまからご支援をお願いすることとし、プロジェクト・サポート募金を実施しております。皆様方におかれましては是非ともご賛同いただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。募金のパンフレットおよび詳細につきましては、大学京田辺校地総務課(ローム記念館事務局)にお問い合わせください。

募金は、大学資金課、女子大学経理課、各校事務室でも受け付けます。



同志社ローム記念館
とは...

京都に本社を置く半導体メーカー、ローム株式会社の寄付をもとに2003年に設立されました。

学生・生徒が集う開放的な学びの空間があり、1年を通して様々な課題に取り組む、「同志社ローム記念館プロジェクト」の拠点としても活用される情報教育施設です。



「プロジェクト」で生きる、 同志社ローム記念館

「同志社ローム記念館で、はじめる。」

このフレーズではじまるオープニングムービーがお披露目されたのは、
2003年9月25日、竣工式でのこと。

オープン前から活動を開始していた学生コアスタッフが出演し、
同志社ローム記念館のコンセプトや施設を紹介した。

あれから15年、

今も変わらず、多くの学生・生徒がここ同志社ローム記念館で、
さまざまなプロジェクトをはじめる。

参加するメンバーにとって限られた学生生活の中のかげがえのない1年。

いろいろな人と出会い、仲間と目標達成を目指す中で成長を遂げ、巣立っていく。



Pick
up!

同志社ローム記念館オープン15周年記念ロゴマーク制作秘話



記念のロゴマークをつくらう！とプロジェクトメンバーにデザイン募集をしたのは2018年2月のこと。約2週間の募集期間だったが、各プロジェクトでデザインを担当するメンバーを中心に、全15作品の応募があった。

応募作品は、2月19日に開催されたSCoP総会でのメンバーによる投票を経て、同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会で決定された。

今回のロゴマークのデザイナーは、「アトリエフレームワークス」のメンバーとして活躍中の西上真由さん（同志社大学文化情報学部2年次生）。フリーのデザインソフトを使って制作したというこのロゴマーク、同志社の徽章を連想させる三角の中にローム記念館の建物モチーフが配され、同志社らしい色使いと、シンプルなデザインが特徴。「ローム記念館が取り入れられているのが良い！」とメンバーの票を集めての採用となった。





座談会

同志社ローム記念館オープン15周年記念企画

「プロジェクト」で生きる、同志社ローム記念館

学校法人 同志社 総長・理事長 八田 英二

2017年度プロジェクト | 「プロンティアットVR」プロジェクトリーダー 竹永 勇真 (同志社大学工学部 4年次生)
 「アトリエフレームワークス」プロジェクトリーダー 吉村玲未花 (同志社女子大学学芸学部 4年次生)
 同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会 委員長 竹廣 良司 (同志社大学図書館長・経済学部教授)

オープン15周年の記念企画として、同志社ローム記念館やプロジェクトについて、プロジェクトメンバーとして活動してきた学生と、総長・理事長との座談会が実現。

学校法人同志社の共通施設「同志社ローム記念館」の魅力とは？

ますます多くの学生・生徒が集う場として発展する未来に向けて、それぞれの思いが語られた。

竹 廣 同志社ローム記念館がオープン15周年を迎えました。オープンと同時にスタートした同志社ローム記念館プロジェクトも、現在第15期のプロジェクトが活動しています。

竹 廣 ラーニングcommonsをつくる時も、ローム記念館を参考にされています。プロジェクトルームがあって、成果報告を行う劇場空間があって、コンテンツを創るためのマルチメディアラウンジもある。自分達で考え、さまざまなことを体験し、切磋琢磨して学び合える環境が揃っています。

八 田 もう15年が経つんですね。当時は他の大学にも例のない、新しいコンセプトの建物でした。ラーニングcommonsという概念も当時はありませんでしたし、「産官学地域連携」、「協働」ということを打ち出した建物というのは全国の大学でも初めてです。教室ばかりの四角い建物が多い中、開放的な吹き抜けの劇場空間は象徴的です。

竹 永 プロジェクトルームは僕らが自由に使える研究室のようなものですね。空いた時間に集まっ

て、わいわい言いながらみんなでこれまでにないものを創っています。

吉 村 ローム記念館は同志社大学の敷地にありますが、プロジェクトには私のように、同志社女子大学の学生がたくさん参加しています。同じプロジェクトのメンバー同士は仲も良いですし、同じ部屋の中で多くの時間を一緒に過ごしていますから、家族みたいなものです。ローム記念館プロジェクトは毎年テーマの違うプロジェクトがいくつもそれぞれのルームで活動していますが、他のプロジェクトは扱う分野や専門も違うので、そこから学ぶことや刺激も多いです。

竹 永 隣り合わせたプロジェクトルームでそれぞれが活動していますが、毎年、3月の最終成果報告会(2018年度は2月23日に開催予定)では、劇場空間でプレゼンテーションをし、「同志社ローム記念館大賞」を目指して全プロジェクトで競い合います。目標達成度や成果物、活動の様子、ローム記念館プロジェクトらしさを評価されます。

八 田 同志社ローム記念館プロジェクトらしさ、と

は何だと思えますか？

竹 永 それぞれがものづくりや新しい仕組みづくりなどに取り組んでいますが、社会にどう影響を与え貢献するか、という所まで自分達で考え、向き合うことだと思います。それらの活動に、IT・メディアテクノロジーを活用することも特徴です。最終成果報告会はプロジェクト同士、学内での発表の場ですが、僕たちが「日本ゲーム大賞」へ挑戦したように、各プロジェクトはそれぞれのフィールドでイベントなどへ出て発表することも多いです。「らしさ」を持ちつつ、外部発信をし、アピールしています。

竹 廣 単年度で完結するプロジェクトではありませんが、毎年プレゼンテーションのレベルも上がってきています。対外的な活動を展開するチームもあり、社会性も高まっている。評価する側もきちんと向き合わなければと思っています。

八 田 「ものづくり」の概念をどう捉えていますか？

竹 永 今までにないものを形にする、創り出すことでしょうか。





創るものはプロジェクトによってさまざまです。私たちはVRゲームをつくり、それを身近なものにしようと取り組んできました。今は、活動を引継いだ後輩たちが、また一歩踏み込んで、複数人同時に楽しめる「マルチVRゲーム」という形に着目して次のプロジェクトとして新しいことに取り組んでいます。

吉村



私と竹永くんも最初は、スマートフォンで楽しめるVRコンテンツをつくるプロジェクトに所属していました。先輩たちと新しいことに挑戦し、形にしてい

くのが楽しかったですね。

そこから、昨年、私はかねてからやりたいと思っていたデジタルアートプロジェクトを立ち上げましたし、彼は、更に本格的なVRゲームをつくり、VR業界を盛り上げる活動を進めていきました。

同志社ローム記念館プロジェクトは、1年ごとの取り組みですから、毎回新しいことに挑戦しやすい環境です。

ひとつのテーマを情性で続けていくのではなく、1年という区切りがある分、毎年、目的と目標をしっかりと据えて取り組める、というのが良いですね。1年やってみて、そこからまた新

しいものが生み出されてきます。

竹廣

先輩たちが創意工夫している様子、必死で考え、活動を展開している姿を見ながら、後輩たちも着実に育っているのを感じます。

八田

頼もしいですね。夢中能れるプロジェクトがあるのも素晴らしい。ところで研究や勉強とプロジェクトとはつながっているのでしょうか？

竹永

ご安心ください(笑)。ちゃんと勉強もしています。大学では座学で先生方から教えていただくことが中心です。それを実践できるのが同志社ローム記念館プロジェクトの良い所です。授業で学んだことを、自分の頭で考え、手を動かして形にし、発信できる、その実感がありません。技術を使おうとすると、自分に足りないことにも気づきます。学ぶことの大事さを知り、前よりも授業をきちんと受けるようになりました。

竹廣



同志社大学には、ローム記念館から派生した「プロジェクト科目」という正課授業としてのプロジェクトもあります。教員側で目標を設定して学生がそこへ参加するしくみですが、ローム記念館プロジェクトは正課外活

動として、学生が自由に自分達で何をどこまでやるかを定めることができます。

竹永

そう。自由ですね。先生方が手助けしてくれますが、決して過干渉でなく、大事な時に意見がもらえます。僕たちは主体的に活動していますが、中間報告会などでいただくフィードバックでは、自分達では見えていなかった課題が見え、良い方向へ軌道修正することができました。

自由にさせてもらえるからこそ、自分達が「ここまでやろう!」というハードルは結構高く設定して、それをさらに超えようと努力していました。

吉村

私たちも昨年度はプロジェクションマッピングのコンペに出て、外の世界でも勝負しました。おかげさまで賞もいただくことができ、後半の活動への弾みになりました。プロジェクトリーダーとして、チームがひとつになれる場面をつくるように心がけました。

八田

自らレベルアップをはかり、高い成果を生み出してきたんですね。プロジェクト活動や成果が社会に貢献できたという実感はありますか。

竹永



2年前には、中学生が楽しく理科を学べるアプリをつくるプロジェクトに取り組んでいました。目的、対象がはっきりしていましたから、実際に

に役立つものになるよう、該当の学年の生徒さんたちに体験してもらい、意見をもらいながらつくりました。

どうしてもアプリをつくることにばかり目が行ってしまうのですが、自分達がつくることに満足するのではなく、対象となる誰かのために、本当に役立つものになるように、という点は大切にしながら、一定の成果はあがったと思っています。しかし、恒常的に役立つような

ものをつくるころまでではできていません。

吉村

社会への影響を与えるという点では、良いものができても発信が足りなかったり、お金が足りなかったり、学業との兼ね合いでどうしても満足いく所までできなかった部分もありますね。私自身、もっと自分達の活動や成果を発信出来たら良かったと思っています。

八田

学校法人全体の取り組みですから、これをやれば更に盛り上がる、ということがあればぜひ提案してください。



竹永

現在、プロジェクトのエントリーのチャンスは年1回ですが、もっとチャンスがあれば、いろいろなプロジェクトが立ち上げられるのではないかと思います。いろんな人が、やりたいことを実現しようと熱い思いを持ってたくさん集まってくればもっと盛り上がりそうですよね。

吉村

私は同志社香里高校の出身ですが、実は、大学に入るまでローム記念館のことを知りませんでした。同志社の法人内諸学校の高校生たちに知ってもらえれば、同志社ローム記念館プロジェクトを大学生活の選択肢に考える人がもっと増えるのではないかと思います。今出川キャンパスに通う文系の学生が参加すれば、新たな視点も得られそうなので、そういった点での広報も必要ですね。

竹永

そうですね。同志社ローム記念館プロジェクト全体として発信力を高めることで、個別のプロジェクトがより活動しやすくなると思います。僕たちも発信に力を入れ、対外的な活動も積極的に行ってきました。他大学や企業の方とのコミュニケーションやコンテスト出場など、どうしても東京へ行くことも必要でしたが、

「同志社ローム記念館大賞」受賞プロジェクト

テーマも活動内容も異なるプロジェクトが一つ屋根の下で競い合う。

目標を達成して成し遂げたすばらしい成果と、そこへ辿り着くまでのメンバー達の努力を讃える制度として「同志社ローム記念館大賞」が設けられている。

これらの受賞プロジェクトからも、この15年のうちに、各プロジェクトで取り上げる「IT・メディアテクノロジー」や「デジタルコンテンツ」の存在、捉え方が移り変わってきたことが伺える。

2003～2004年度	e-learning教材の開発とインフォテーブルの基礎研究 ＜誘致プロジェクト：萬世電機(株)＞	
2005年度	同志社大学レスキューロボットプロジェクト(D.U.R.P) ＜公募プロジェクト＞	
2006年度	「幼児から高齢者まで」メールで話そう！プロジェクト-タブレットPCを活用した多世代メールコミュニケーション ＜誘致プロジェクト：マイクロソフト(株)＞	
2007年度	「Playful Intelligence」 ＜誘致プロジェクト：(株)CSKホールディングス＞	
2008年度	同志社レスキューロボットプロジェクト ＜公募プロジェクト＞	
2009年度	同志社レスキューロボットプロジェクト ＜公募プロジェクト＞	
2010年度	Easy京都観光 ＜公募プロジェクト＞	
2011年度	該当なし	
2012年度	該当なし	
2013年度	同志社電子書籍プロジェクト *2013年度より誘致・公募のプロジェクト区分廃止	
2014年度	プロデューサー養成プロジェクト@木津川市 ＜参加団体：NPO法人 プロデューサー・テクノロジー開発センター＞	
2015年度	VR Agency	
2016年度	スタディドットVR	
2017年度	プロンティアットVR	



竹 廣

遠征費まではサポートしてもらえず、参加できないメンバーもいましたので、ご支援いただけるとありがたいです。

ローム記念館は法人共通施設ですから、もう少し法人内諸学校の垣根を越えた自由な使われ方をしても良いと思っています。学生・生徒が集って、競い合いながら高みを目指す。新しいものを創り出すたいへんさ、大変だからこそのおもしろさを知ってほしいと思っています。総長賞の創設などもぜひご検討ください。

八 田

そうですね。プロジェクトがあるから同志社ローム記念館が活きている、と思います。建物があるだけ

でなく、そこにたくさんの学生が集い、利用され、新たなものが生み出されている。法人としても、こうした場を大切にしていきたいと思います。

学生のみなさんが自主的に取り組み、学校法人全体を巻き込んでいって同志社らしい流れ、風をつくっていきましょう。同志社としては、みなさんの学生生活が充実したものになるよう、大学の教育として新しい知識を提供します。しかし、知識だけでなく、知恵の部分も育てていくのも大事な教育です。同志社ローム記念館プロジェクトはみなさんの知恵を育み、引き出す良い取り組みだと思っています。お二人の経験や学びを後輩たちにも受け継いでほしいです。



Pick up!

2017年度「プロンティアットVR」プロジェクトリーダー 竹永 勇真さん
平成30年度 日本学生支援機構(JASSO)優秀学生顕彰で
「優秀賞(産業イノベーション・ベンチャー)」を受賞!



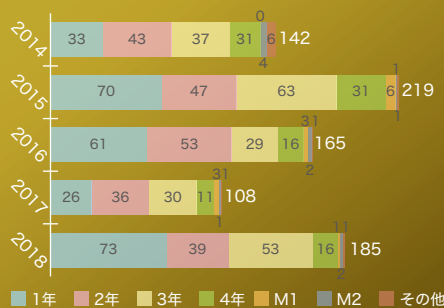
リーダーとして取り組んだプロジェクト活動やその成果が評価されての受賞。その喜びとともに「共に戦ったプロジェクトメンバーのみんなをはじめ、いつも支えてくれた家族、同志社ローム記念館や大学のみなさんに心から感謝しています。卒業後はゲーム業界へ進みますが、みなさまに楽しいゲームを届けられるよう努力・精進いたします。ベンチャー精神を忘れず、イノベーションを起こせるよう挑戦し続けたいと思っています。」と語った。

めぐ る 15年。

2018年9月に同志社ローム記念館はオープン15周年を迎えた。広報誌「同志社ローム記念館プロジェクト・リポートDIR」では、10号ごとに同志社ローム記念館プロジェクトの歴史をまとめてきた。オープン～2008年度はVol.10、2009～2013年度はVol.20、そして今号のVol.30では2014～2018年度を振り返っている。新たな取り組みもあれば、過去の実例を活かしていくことも増えた。そうして巡ってきた15年。企画書、報告書、資料、写真、動画、そして、人。たくさんの宝物は、これからもまだまだ増え続ける。

2014-2018年 活動記録

学年別メンバー推移



プロジェクト数推移

Year	単年度PJ ※スタジオZero含む	プロジェクト数
2014	6件	プレ・プロ春 プレ・プロ秋
2015	9件	プレ・プロ春 プレ・プロ秋
2016	9件	プレ・プロ春 プレ・プロ秋
2017	5件	短期PJ 2件
2018	6件	短期PJ 4件

2014年度

- 4月 DIR Vol.21 発行
- 5月8日(木)～30日(金) ウェイクアッププログラム スタジオZeroが主催し、ガイダンスだけでなく、コミュニケーションワークショップなども実施。
- 5月12日(月)～7月21日(月) プレ・プロジェクト<春>「インタラクティブ・インストールをつくる」初の試みとして、約3ヶ月の活動期間であらかじめ設定されたテーマに取り組むプロジェクトが始動。春は、人の動作によって変化するインタラクティブアートの制作を行った。
- 6月28日(土) 同志社ローム記念館プロジェクト杯 プロジェクトメンバーを対象としたスポーツ系イベント初開催。多々羅キャンパス体育館にて、約30名が3チームに分かれての対抗戦となった。
- 8月8日(金)～9月2日(火) ものづくり体験イベント「Hack U 同志社ローム記念館」 ヤフー株式会社の協力で開催された。開発コンテスト、Kinectを使って人の動きで操作するテトリス「ヒトリス」など、さまざまなアイデアを競い合った。
- 8月25日(月)～26日(火) ステップアップキャンプ 当年度のテーマは「伝える」。メンバーの約半数である70名が参加した。
- 9月27日(土) 中間報告会 「プレ・プロ<春>「インタラクティブ・インストールをつくる」ギャラリー展覧会」も同時に開催された。
- 10月 DIR Vol.22 発行
- 10月7日(火)～12月16日(火) プレ・プロジェクト<秋>「企画立案の極意と実践 ～新しい「文具」の企画～」 新しい文具の企画・試作に取り組み、出来上がった作品で企業主催の文房具のアイデアコンテストへエントリー。
- 3月7日(土) 最終成果報告会・同志社ローム記念館大賞発表会



2015年度

- 4月 DIR Vol.23 発行
- 4月24日(金)～7月10日(金) プレ・プロジェクト<春>「『同志社校友会』プロモーション ～宣伝広告活動の企画と実践～」 昨年度に引き続き、2015年度もプレ・プロを実施。春は、同志社の卒業生団体「同志社校友会」を在学生へプロモーションする映像制作。
- 5月12日(火)～26日(火) ウェイクアッププログラム 5月19日(火)には、ミーティングワークショップも実施。
- 8月22日(土)～23日(日) ステップアップキャンプ 「自分の考えを相手に伝える」「相手の考えを理解し、伝える」をテーマに、93名が参加。プログラムのひとつ「商品企画ワークショップ」では、OP(Old Project-member)チームも参戦した。
- 9月26日(土) 中間報告会
- 10月 DIR Vol.24 発行
- 10月6日(火)～1月12日(火) プレ・プロジェクト<秋>「新しい「文具」の企画 ～企画立案の極意と実践～」 文具メーカー協力のもと、実際に商品開発の現場で活躍する企業人とともに新しい文具の企画・考案を行った。
- 11月21日(土) 同志社ローム記念館プロジェクト杯 好評につき、第2回スポーツイベント開催。
- 3月5日(土) 最終成果報告会・同志社ローム記念館大賞発表会



2016年度

- 4月 DIR Vol.25 発行
- 5月17日(火)～7月19日(火) プレ・プロジェクト<春>「京田辺校地開校30周年記念 プロモーションムービー制作プロジェクト」 第5期となるプレ・プロ<春>では、メンバーが4チームに分かれ、「京田辺校地開校30周年」をテーマにプロモーションムービーの制作を行った。
- 5月 ウェイクアッププログラム 「スタジオZero」内に勉強会チームが発足。「企画のススメ」でプロジェクトの基礎づくり。
- 6月18日(土) 同志社ローム記念館プロジェクト杯
- 8月22日(月)～23日(火) ステップアップキャンプ 「表現力とチームワーク」をテーマに、メンバーみんなが海賊となり、太古の秘宝を探し出すストーリーを展開。
- 9月24日(土) 中間報告会
- 10月 DIR Vol.26 発行
- 10月18日(火)～1月10日(火) プレ・プロジェクト<秋>「ウルシx〇〇[japan] productsの開発」 「新しいウルシ商品の開発」を目指し、商品企画のプロセスを学ぶプロジェクト。漆の代替塗料カシュエを用いて実際に試作品も作り、最終回では合評会を行った。
- 1月16日(月) 「日本マイクロソフトエバンジェリスト 澤 円氏が教える～プレゼンの極意～」
- 3月4日(土) 最終成果報告会・同志社ローム記念館大賞発表会



2017年度

- 4月 DIR Vol.27 発行
- 4月～11月 オムロン株式会社との短期連携プロジェクト オムロン社内イベントの「おもるまつり」の展覧を目指し、議論を重ねた末、テーマを「コミュニケーション」に設定。笑顔とうなずきを測定・点数化してトレーニングするシステム「エガ☆マス」を開発した。
- 5月 ウェイクアッププログラム 「3Dプリンタ講習会」を初めて実施。
- 8月22日(火)～23日(水) ステップアップキャンプ 「プレゼンテーション能力」と「コミュニケーション能力」をテーマに、講師としてOPを招いた。「学校」をイメージした進行が行われ、最後のまとめでは通知表が配られた。
- 9月30日(土) 中間報告会
- 11月～3月 ローム株式会社との短期連携プロジェクト 地磁気センサなどを使った目の不自由な方への新しい白杖「盲導機」、気圧センサや加速度センサで忘れ物を教えてくれる端末「忘れ物発光体」の企画・開発を目指した。
- 3月3日(土) 最終成果報告会・同志社ローム記念館大賞発表会 学生相互評価賞の他、コイン投票も実施。



2018年度

- 4月～11月 パナソニック株式会社との短期連携プロジェクト マニュアルカメラの機能を使ったAndroidアプリの企画・開発を行い、11月9日(金)には「あなたもヒーロー」をリリースした。
- 5月 DIR Vol.28 発行
- 5月9日(水)～6月1日(金) ウェイクアッププログラム
- 5月16日(水) ノキタ〇〇 同志社ローム記念館オープン15周年を記念し、毎月イベントを実施。5月はOne Voicesのライブが行われた。
- 6月1日(金) SCoP大総会 定期的に行われるプロジェクト連絡会議「SCoP総会」を、交流会も兼ねて全プロジェクトメンバーを対象に開催。5月16日(水)に実施したポスターデザイン勉強会を経て作成した、プロジェクトポスターの発表会・投票なども行われた。
- 6月6日(水) ノキタバフォーマンス ノキタイベントの第2弾はHocus Pocusのパフォーマンスを実施。
- 6月～11月 木津川市役所との短期連携プロジェクト 木津川市の魅力を活かしたムービーを作成し、フィルムフェスティバルへ出場。
- 6月～11月 オムロン株式会社との短期連携プロジェクト 前年と同様、「おもるまつり」の展覧を目指し、「AIと健康」をテーマにスタート。無意識に計測される身体データから、ユーザにピッタリなエクササイズをVR空間で行えるシステム「ながらVR」の企画・提案を行った。
- 7月～8月 ローム株式会社との短期連携プロジェクト ローム株式会社の主催イベント「ROHM OPEN HACK CHALLENGE 2018」への出場を目指し、扉でコミュニケーションを図る「Tobira(あいとびら)」の開発を行った。
- 7月10日(火) ノキタナバタ
- 8月24日(金)～25日(土) ステップアップキャンプ 今回は「気づき」がテーマ。クリエイティブディレクターの秋山理二郎氏をお招きしての企画会議に関する講義とワークショップ、プロジェクト対抗ワークなどのプログラムを実施。
- 9月21日(金) ロームフェア2018プレイベント「エンジニア博-未来の仕事-」 数年前までプロジェクトで活躍していたOPを含む卒業生6名による「ご自慢エンジニアライフ」や、「ラウンドテーブル」で学生がより身近に社会生活をイメージできるイベントとなった。
- 9月29日(土) 同志社ローム記念館オープン15周年記念フォーラム・中間報告会
- 10月9日(火) ノキタプロレス ノキタにプロレスリングを設置し、プロレス同盟による興行が行われた。
- 12月17日(月)～24日(月・祝) ノキタクリスマス クリスマスムードいっぱいの館内で、映画サークルF.B.I.の映像上映会や、同志社大学マンドリンクラブの演奏会を楽しむイベント。





同志社ローム記念館オープン15周年記念フォーラム 2018年度同志社ローム記念館プロジェクト中間報告会

9月29日(土)、同志社ローム記念館オープン15周年記念フォーラムを開催した。
2018年度同志社ローム記念館プロジェクトの中間報告会と同日開催で、プロジェクト
メンバーや関係者約130名が参加した。

<プログラム>

12:30~12:50	開会 記念フォーラム 挨拶 学校法人同志社 総長・理事長 八田 英二
12:50~14:10	第一部 記念講演「VR2.0が変える身体と心」 講師：廣瀬通孝氏（東京大学大学院情報理工学系研究科教授） 第一部閉会挨拶 同志社ローム記念館運営委員会委員長・同志社大学副学長 横川 隆一（同志社大学生命医科学部教授）
14:10~14:20	休憩
14:20~16:20	第二部 2018年度同志社ローム記念館プロジェクト中間報告会 第二部閉会挨拶 同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会委員 余田 義彦（同志社女子大学学芸学部教授） 各プロジェクトからのプレゼンテーション
16:20~16:30	休憩
16:30~18:00	ポスターセッション&交流 外部審査員からの講評 総評 同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会委員長 竹廣 良司（同志社大学経済学部教授）



第一部フォーラムは、15年前に制作されたオープニングムービーダイジェスト版の放映で開会。

はじめに八田英二総長・理事長から、ローム記念館開設15周年記念のお祝いのご挨拶として、日ごろからご支援をいただき企業・団体、関係者各位に謝辞を述べるとともに、「同志社ローム記念館は、次世代の情報化社会を担う優秀な人材育成を目指して、IT・情報メディアを活用したプロジェクトを行う、学生を主体とする学びの拠点である。また、法人共通施設として、大学、女子大学、国際中高の学生・生徒が利用できる、学校の枠を超えた学びの場でもある。今後ともさらに独創的で新規性の高いプロジェクト活動を行い、次世代を担う人物が育つことを大いに期待している」との言葉をいただいた。



記念講演では、「VR2.0が変える身体と心」と題し、東京大学大学院情報理工学系研究科教授 廣瀬通孝先生にご講演いただいた。

講演では、第一に「VR技術の今」として、「バーチャルリアリティ」とは、コンピュータの中につくりだした空間の中に入り込み、そこでいろいろな体験をしようとする技術のことであり、ルーツは1989年の西海岸のベンチャー企業が提案したシステムであり、さらにその前にはNASAなどで開発さ



れた宇宙航空技術がある、とのお話があった。最初のVR誕生から29年が経過し、VR技術は第二世代に突入しつつある。その特色は、技術の世代交代により驚異的な高性能化と経費の低廉化（当初300万円した機器が今は数万円程度）が進んだこと、そして、第一世代では存在していなかった周辺技術（Web、全天周カメラ等）が登場したことにあり、高い臨場感の映像をインタラクティブに体験する技術が整いつつあると説明された。

第二に「五感情報通信技術とVR」では、疑似触覚、五感相互作用ディスプレイで拡張満腹感を味わったり、大きな空間（草原など）を体験させるなど最新技術の紹介があった。第三の「体験すること」では、可視化技術の意味として頭で理解することと身体で理解することは違うとの説明があり、VR技術は実際には体験できない世界を知覚可能な世界の枠組みに組み入れてくれる。「バーチャルリアリティ」は、単なるシミュレーションの域を超えているとし、例えば、医学の手術シミュレーターは、専門的な技術を教える優れた技術になるとされた。第四として「時間と空間を超える」の中で、VRでなければできないものは「臨場感通信」=テレプレゼンス（遠隔臨場感）であり、その技術が存在感と臨場感を体言できる新たなメディアになると予想された。簡易ロボットを活用する遠隔授業や仮想旅行、瞬間移動などは、企業本来の業態を超える「破壊的イノベーション」を起こす可能性がある。

第五の「情動の誘発」では、人は自分が何者だと思おうかでパフォーマンスが変わると説明された。疑似成功体験を与えるVRトレーニングや拡張身体と心の関係など、VR技術が人間の心の関係にまで及ぶ説明を展開された。

最後に、現在、主にゲームで活用されているVR技術は、次世代では「教育」と「訓練」の極めて効果的なツールとして大きく発展していこうとお言葉で締めくくられた。最新技術の創出や活用、新たなプロジェクトテーマを考えていこうえでもたいへん興味深い講演で、プロジェクトメンバーも熱心にメモを取りながら聞き入った。

第一部の最後には、ローム記念館運営委員会委員長・同志社大学副学長の横川隆一先生から、講師の廣瀬先生への謝辞と第二部での学生たちの中間報告の成功を期待して、閉会のご挨拶をいただいた。





第二部では、現在活動中のプロジェクトによる中間報告会が開催された。1年間での目標達成を目指す単年度プロジェクトが5チームと産学地域連携の短期プロジェクトである4プロジェクト、そして、プロジェクトのサポートを担うスタジオZeroが半年間の成果報告を行った。今年度のプロジェクト活動も折り返し地点を迎え、中間報告会は外部審査員や運営委員等から、プロジェクトの進捗状況や目標達成度などの評価を受けて、課題や問題点を把握し、後半の活動に向けての軌道修正をはかる重要な機会となった。

前半は、引き続き劇場空間にて、限られた時間でいかに活動の充実ぶりを伝えるか、各プロジェクトが工夫を凝らしたプレゼンテーションを行った。

その後、会場を1階多目的スペースに移して、プロジェクト毎に設置したブースでポスターセッション形式での質疑応答を行った。各ブースでは、活動を紹介するポスターや成果



物を前に、外部審査員や委員、企業等関係者、参加学生などが活発な質疑を行い、後半からのプロジェクト活動に向けて、有意義な意見交換を行い、たくさんのアドバイスを得た。

最後に、外部審査員からのコメントとプロジェクト運営委員会委員長の竹廣良司先生から、「中間報告会は取組んでいることの可能性について外部から意見をもらう場だった。成果を生み出すまでの過程、ステップをしっかり自覚することが大切。これを機会にお互いの悩み、課題を共有し、交流を深め、アイデアを出しあってほしい。今、取組んでいることが活かせるようにいろんなことにチャレンジしてもらいたい」と総評があり、これからの活動に向け、メンバーの表情もまた少し引き締まった。



ステップアップキャンプ 8月24日(金)～25日(土)

毎年多くのメンバーが参加するステップアップキャンプ。他のプロジェクトメンバーとの交流をはかりつつも、ステップアップのための充実した時間をともに過ごす、夏期休暇期間中の2日間。台風に見舞われ、開始時刻を遅らせての開催となったが、総勢86名のメンバーが同志社びわこリトリートセンターへ集まった。

今回のテーマは「気づき」。このキャンプが数々の発見の旅となるよう、キャンプ中の学びや気づきを記すワークシートとして「パスポート」に見立てた冊子が配られた。

プロジェクト混合チームで取り組む1日目はアイスブレイクでスタート。

プロデューサー、ディレクターとして、また、コピーライターや放送作家としてなどさまざまな仕事を手がけ活躍されている秋山理二郎氏(株式会社 第貳表現 代表取締役・クリエイティブディレクター)をお招きし、講演・ワークショップ「壮絶番組企画会議。～「発想する」よりオモロイ戦いが、そこにはある。」が開催された。

プロジェクトを進めるうえで重要な企画会議だが、はじめて話すメンバーもいるチームの中で、自分と他者との考え方の違いや「決める」ことの難しさを改めて実感し、今後の活動につながる貴重な機会となった。

2日目の午前中にはプロジェクト単位でのワークで、メンバーそれぞれに与えられた情報をうまく組みあわせながらミニゲームをクリアして具材を集めて地図の上を進む「最高の丼ぶりを作ろう!」に挑戦。各チームでの情報共有のあり方、チームワークの良さが求められる時間となった。2日目後半は、プロジェクトごとの活動時間とし、秋のイベント企画や進捗状況確認のミーティングなどの活動を展開した。

限られた時間の中ではあったがそれぞれに気づきや学びを得たメンバー達。自分の強みや弱点と向き合う場にもなったようだ。



同志社クローバー祭 2018

11月3日(土・祝)・4日(日)

京田辺キャンパス恒例の秋の一大イベント。同志社ローム記念館でもプロジェクト活動の成果発表の場として多くのイベントが開催された。本年度は8チームが出展、秋をテーマに飾り付けられた館内には、情報誌「ippo」を片手に家族連れや学生など多くの来場者があり、大盛況の2日間となった。



タイムトラベルVR



「フロンティアVR」からは、過去・現在・未来、それぞれの時代への列車の旅をテーマに、マルチVRゲーム「Magic combat」を中心に、プロジェクトで開発した3つのVRゲームを巡るブースを展開、子どもから大人まで幅広い年代の方に楽しんでいただいた。この時期、本イベント以外にも「けいはんな情報通信フェア」をはじめ、学内外のイベントに多数出展してアンケート調査を実施、体験者の意見をもとに更にブラッシュアップをはかる。



“くすっと笑える”カメラアプリ「あなたもヒーロー」体験会

パナソニック株式会社との連携プロジェクトとして、スマホのマニュアルカメラ機能を使ったアプリを開発している「Android Smartphone Application Project One」は、完成したアプリの体験会を開催。写真を撮って対戦スタート、写真によってキャラクターのHPが決定、相手の顔をタップしあって勝敗が決まるシンプルなゲームで子どもたちにも大人気だった。使いやすさ、楽しさについての意見をもとにブラッシュアップしたアプリ「あなたもヒーロー」はGoogle Playで無料公開中。



エコまな発電所

環境教育プログラムの開発・展開やイベント開催を通じた環境意識の向上に取り組む「エコまな@京田辺」。今回はエネルギーに着目、水力、太陽光発電の模型展示とあわせ、ペットボトルを使って羽を自作し、風力発電を体験してもらう企画で出展。参加した子どもたちは羽の大きさや角度を工夫、自分で作った羽が風を受けて回る力で光る豆電球に歓声が上がった。



カラフルゴーストバスターズ

昨年度に続き大人気となったのは、デジタルアートを身近にしようとして作品づくりに取り組む「アトリエフレームワークス」のブース。制限時間内に出てくるカラフルなおぼけを踏んで倒すゲーム感覚の作品で、子どもたちだけでなく、プロジェクトメンバーにも好評だった。本年度1つめの作品となった「海さんぼ」をアレンジし、人の足を動きをセンサーで感知、インタラクションを生み出す作品に仕上げた。



坂とキカイ



京田辺の坂を電動ローラースケートで登れたら・・・そんな思いから立ち上がった「S.D.S」からは、これまで作成した小型の機体を触ってもらうとともに、開発に向けた意見収集を行った。子どもから大人まで多くの方からもらった意見をもとに、本年度の目標である、荷物を運ぶ電動の機体制作につなげていきたい。

日韓フレンドシップLIVEⅣ「RE;ACT K-POPライブ+韓国語講座」

韓国の大学と連携し、距離を超えてともにコンテンツを開発するシステムづくりを目指す「KJ3プロジェクト」。今回は日韓フレンドシップライブ第4弾として、K-POPグループ「RE;ACT」のライブを開催。RE;ACTのメンバーとともに韓国語に親しむコーナーもあり、来場者を楽しませた。



ながらVR

オムロン株式会社との連携プロジェクトでは、AI×健康をテーマに、アイデアを出しあい新たな製品を企画。1日の消費カロリーを無意識のうちに測定、その不足分を消費するフィットネスを提案し、VR映像を見ながら実践するシステム「ながらVR」のプロトタイプ制作に取り組んだ。今回のブースでは、その一端を体感してもらうデモを実施した。



オータムローム～あきない秋みつけた！～

館内で活動するプロジェクトを盛り上げる「スタジオZero」。劇場空間では、プロジェクトを紹介するCMの放映をはじめ、大画面を活かしたゲームイベント「ロームに参戦！巨大ディスプレイで大乱闘」、子どもたちに人気の「ミニゲームであそぼっちゃ！」を開催した。館内の秋らしい装飾や、SNS映えるフォトスポットで撮影した写真を投稿してもらう「ロームフォトコン」など、家族みんなで楽しめる空間を演出した。



Pick up!

ロームフェア2018プレイイベント「エンジニア博～未来の仕事～」

2018年9月21日(金)、ロームフェア2018プレイイベント「エンジニア博～未来の仕事～」を開催した。

本企画は、同志社ローム記念館開設15周年記念事業のひとつとして、ローム株式会社協賛のもと開催したもので、同志社ローム記念館プロジェクトOP (Old Project-member) や同志社大学の卒業生をお招きし、企業におけるエンジニア、技術者の仕事や生活をテーマにして、学部・学科、学年を問わず広く現役の院生、学部生と先輩社会人との交流の場を設ける初めての試みとなった。

第一部の基調講演では、ローム記念館劇場空間でローム株式会社LSI本部複合電源LSI商品開発部長北條喜之氏(同志社大学工学部電子工学科1998年卒)と理工学部長・化学システム創成工学科教授の塚越一彦先生からご講演をいただいた。

北條氏からは、「企業で活躍するエンジニア」の演題で、新人時代の新技術開発の苦労話や企業におけるエンジニア・技術者の姿勢など、豊富な実

体験に基づく話をいただいた。

また、塚越理工学部長から「大学教育とエンジニアリングへの道」の演題で、ご自身の学生時代も含めて「実験データが何よりも優先される」「疑問のポケットをたくさんつくる」「どんな切り口からでも入っていける」という理系の視点、自分の頭でとことん考える重要性など示唆に富む話をいただいた。

第二部では、企業で活躍する卒業生と在校生との交流ワークショップを実施。トークセッション「ご自慢エンジニアライフ」で、自己紹介を兼ねて会社自慢、企業の仕事や失敗談など自由に語っていただいた後、ローム記念館1階の多目的スペースで、卒業生7人が学生たち7グループを順にまわりながら意見交換を行った。さまざまな分野におけるエンジニアの仕事と生活について、自由に語りあうことができ、参加した学生たちには有意義な時間となった。その後開催された交流会では、教職員、卒業生、在校生が旧交を温め、楽しく歓談の時を過ごした。



<参加いただいた卒業生のみなさま>

澤 佐幸 氏 (工学研究科電気工学専攻修了 オムロン株式会社)
小羽田諭孝 氏 (生命医科学部医工学科卒業 株式会社キュア・アップ)
乾 晃久 氏 (文化情報学部文化情報学科卒業 情報通信関連企業)

鈴木 直道 氏 (理工学研究科応用化学専攻修了 日揮株式会社)
北村 暁晴 氏 (生命医科学研究科後期課程修了 日立造船株式会社)
里見 剛 氏 (工学研究科数理環境科学専攻修了 ローム株式会社)

Event Report

イベント報告

2018年7月～
2018年12月



bプログラム
七夕週間ジョイントコンサート「同志社室内楽団×邦楽部」
7月5日(木)・6日(金)



同志社ローム記念館オープン15周年記念イベント「ノキシタプロレス」
10月9日(火)
主催:同志社ローム記念館プロジェクト「スタジオZero」



Doshisha Spirit Week 2018秋「同志社大學応援団 演舞」
10月29日(月)
主催:同志社大学 キリスト教文化センター



ロームフェア2018
10月31日(水)・11月1日(木)
主催:ローム株式会社

● イベント

bプログラム
「出張CLAPコマドリアニメーションワークショップ」(アニメ上映・メイキングトーク・展示会)
7月20日(金)
「久保雄太郎アニメ上映」(メイキングトーク・展示会)
10月19日(金)
コンサート「ウクレレ奏者 鈴木智貴」
11月16日(金)
主催:同志社大学 学生支援課

マルチVRゲーム体験会
7月10日(火)
主催:同志社ローム記念館プロジェクト「フロンティアVR」

説明会「企業が求める人材とは?」
7月13日(金)
主催:同志社大学 国際課

木津川市プロデュースプロジェクト 企画ミーティング
8月21日(火)
主催:特定非営利活動法人 プロデュース・テクノロジー開発センター

ロームフェア2018プレイイベント「エンジニア博～未来の仕事～」
9月21日(金)
主催:同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会

同志社ローム記念館オープン15周年記念フォーラム・
2018年度同志社ローム記念館プロジェクト中間報告会
9月29日(土)
主催:同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会

V-NET トークライブ
10月3日(水)
主催:同志社大学 ボランティア支援室

日韓フ렌ドシップイベント Part3 TOP SECRET K-POPライブ
10月17日(水)
主催:同志社ローム記念館プロジェクト「アジアの国々とメディアコンテンツを創るコラボレーションシステムの開発」

EUキャンパスプログラム説明会
10月22日(月)・10月23日(火)
主催:同志社大学 全学共通教養教育センター事務局

マルチVRゲーム体験会
11月5日(月)・11月6日(火)
主催:同志社ローム記念館プロジェクト「フロンティアVR」

TEDx DoshishaU 告知イベント
11月13日(火)
主催:TEDx DoshishaU 実行委員会

ステップアッププログラム スマホ・ケータイ安全教室
12月4日(火)
主催:同志社大学 学生支援課

服Reuse
12月10日(月)
主催:同志社エコプロジェクト

同志社ローム記念館オープン15周年記念イベント「ノキシタクリスマス」
12月17日(月)～12月24日(月)
主催:同志社ローム記念館プロジェクト「スタジオZero」

● 展示



海さんぽ
10月22日(月)～10月26日(金)
主催:同志社ローム記念館プロジェクト「アトリエフレームワークス」